

管内概要

1 位置

管内は、県の中部・北部に位置し、地域は野呂川・釜無川流域、八ヶ岳南麓、塩川流域、荒川流域、滝戸山地域の6つに大別される。北部から西部にかけては長野県に接するほか、北東部の一部は甲府市有林に、その他は峡東、峡南、富士・東部の各林務環境事務所管内と接している。

行政区域は、甲府市ほか5市1町(133,537ヘクタール)で、県土面積(446,537ヘクタール)の30パーセントを占めている。

管内の県有林面積(57,813ヘクタール)は、当行政区域に占める割合は43.3パーセント、全県有林面積(158,253ヘクタール)の36.5パーセントにあたる。(平成 20年 4月 1日現在)

2 地勢

区域は甲府盆地北西の平野部を起点に四方にひろがり、四囲が急峻な山岳地帯で形成され、比較的森林地帯の山脈が短く急傾斜地であるため、河川は急流となっている。

野呂川・釜無川流域は北岳(3,192m)、甲斐駒ヶ岳(2,967m)などの高山からなる南アルプス国立公園に、八ヶ岳地域は主峰赤岳に代表される八ヶ岳中信高原国定公園に、塩川・荒川地域は、瑞牆山(2,230m)、金峰山(2,599m)からなる秩父多摩甲斐国立公園をなしている。

交通は、中央自動車道、中部横断自動車道、国道20号、国道52号、国道141号及び国道358号が幹線道路となっており、これらの国道から県道、市町村道が分岐している。鉄道は、JR中央線、小海線、身延線が区域内を通過している。

3 地質

地質は、フォッサマグナ(中央地溝帯)にあたり、県有林の分布範囲も広いと、極めて複雑な構造となっている。

土壌は、亜高山帯以外は褐色森林土が広く分布し、八ヶ岳の火山地帯には一部黒色土が出現している。

管内亜高山地帯では、ポドゾル化土壌となっており気候条件に恵まれていないため、林地生産力は低くなっている。褐色森林土は、山頂から里山にかけて順次BA型からBE型になっている。

4 気象

甲府盆地を中心に四方が高い山によって囲まれ、平野部との標高差が大きい。このため、年間を通して気温の寒暖差があり、また海洋からの距離もあるため一般に降水量が少なく、季節風が強いという典型的な内陸型気候を呈している。

年平均気温は10～15℃、年間降水量は1,000～1,500mmですが、6～9月の梅雨期と台風期に多く、冬季に少なくなっている。

5 林況

植物帯からは暖帯から寒帯に及んでおり標高差の大きい地域となっている。標高別に区分すると、標高約1,800メートル以上は亜高山樹林帯(シラベ、コメツガ、アオモリトドマツ、カンバ等)で、これ以下は落葉広葉樹林(ナラ、クヌギ、シデ、ハンノキ、カエデ等)と人工針葉樹林(カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ等)から構成されている。標高2,500メートル以上の高山帯はハイマツ及び不毛地となっている。また、ヒノキ、アカマツ、カラマツを中心とした人工林が約3割を占め、特にカラマツについては人工林面積の約6割に及ぶ造林地が広がっている。一方、奥千丈のクリ、ミズナラ林、御岳昇仙峡及び八ヶ岳南麓のアカマツ林、櫛形山・北沢峠の原生林など、貴重な森林も多くみられる。

6 その他

優れた景観を有し貴重な動植物が豊富に生息・生育する日本有数の山岳地域が含まれており、その大部分が公立公園等の指定を受けている。このため、南アルプス、八ヶ岳、昇仙峡や尾白川渓谷等雄大な自然を背景とした多くの観光資源に恵まれ、観光客が多く訪れている。

中北林務環境事務所 管内概要図

